

市長と市民の「こんだん会」
臥雲市長にアタック！ 地域の元気な声を届けよう
中山地区開催報告

1 開催概要

- (1) 日時 令和5年7月28日(金) 10:00~11:50
(2) 場所 中山公民館 大会議室
(3) テーマ 中山地区から元気な地域活動を！
～ 住んで良かった より良い中山づくり ～
(4) 参加数 33名（市長、参加者 14名、傍聴者 12名、関係職員6名）
(5) 参加者 中山体験フェスタ事務局、ひろば事業推進協議会、
中山っ子応援団、中山保育園保護者会、町会連合会、松本大学生

2 市長あいさつ

今日は幅広い世代のみなさん、そして子どもや地域を見守り、元気づくりに取り組んでいるみなさんにお集まりいただきましてありがとうございます。

中山に向かってきて、改めて松本市内の中でも、特に中山は緑が豊かで、景観に恵まれた地区であることを実感いたしました。

松本全体の課題でもありますが、少子高齢化のなか、子どもが住み続けるために、地域の人たちがこの先どうなるだろうと感じるなか、課題は中山も共通しています。今日はいろいろなご意見をお聞きしていきたいと思っております。



3 こんだん内容

(1)2022 なかやま体験フェスタ 事務局長 鈴木 幹夫さん

地区の課題でもある、高齢化率は42.5%という数字です。私は今から25年前に中山に移住しましたが、当時、満員のバスが家の前を通り過ぎていったという記憶があります。時には2台連なって行って“幻じゃないかなって”思いがあるくらい人がたくさんいました。今から約20年前の高齢化率は21%、今年度ついに42%を超えているので、松本市の中でも高齢化率が非常に高い地域になっております。

“住んで良かった中山づくり”を目指し、まず初めに地区内には遊休農地が増えてきていますので、加工トマト、花豆の栽培、かつては松本ほうきも作っていた。今は地元出身の中学生、高校生、大学生も参加しており、今年も皆さん元気に農作業等をやられております。

それから二つ目として公民館カフェ、毎週火、金曜日に講座室を利用して、コーヒーがいただける場所を19人のボランティア女性スタッフが交代で活動しています。

また、カフェボーイというのも2年前からやり始めました。これは少しこだわりがあり、月1回、生のコーヒー豆を調達して、調理室で焙煎機を使って焙煎し、中山で汲んできた天然水を使用してコーヒーを提供します。コーヒーをいただきながら、中山で活動するアーティストのライブも開催しています。



3つ目として、中山史跡ウォーキングです。中山はご存知のように史跡が多いので特徴を知ってもらうため秋に開催しています。

信州松本、中山を紹介する“なかやまマップ”を作りました。私自身も作成に関わる中で、中山にはどんなところがあるのか、どんな人が住んでいるのか、ということを確認することができ、これを活用した形で“なかやま体験フェスタ”を実施することができました。

先ほど、公民館会場で焙煎珈琲をやっているある青年が、中山に移住してきたいと声があつて、古民家を見つけました。竹藪だらけの敷地を住民有志が伐採し、青年ご夫婦は、そういう住民の人と深く関わるようになって、ぜひ中山に住みたいと言っております。やがては、そこに家を作るという方向性も出しておりますので、住んでくれる仲間がたくさん増えてほしいと思います。ただ、空き家は増えておりますが、なかなか空き家バンクに登録してくれる人が少なく、その空き家をどう利用させていただくか、これからの大変大きなネットワークになるのではないかなと、私自身は中山を活性化させる立場として感じています。

【市長コメント】

パンフレットを見ただけでも、これだけの企画を3日間で実施したことに、凄いと思っ
ていましたが、改めてVTRを観て、35地区でこれだけ地元の皆さんが取り組んでいるの
は、少ないのではないかなと感じました。

また、そういうことに取り組める人材育成に、この地域の繋がりを感しました。

ぜひ、今年2回目の開催になった際には、もちろん地元の皆さんが参加をしていただ
く、楽しんでいただく、これがベースにあつてこそですが、改めて中山以外の人たちが中山
にこの3日間、“ぜひ行ってみたい”と思っただけのように、松本市としても、広報PR
をしていきたいと思ひますし、例えば動画を撮影した松本大学のスタッフの皆さんと一
緒に創れたらと思ひました。

こうした催しも、いろいろな人たちに中山の楽しさを知っていただき、その先に住んでも
らうということに繋げていくことが、空き家の問題のどこを改善していけば、住まいの候補
となりうる、どれだけのどの場所か、そして、潜在的には、もし住まいが確保できるなら、住
みたいという方々に提供できるその仕組みを皆さんと一緒に作っていききたいと思ひます。

(2)松本大学 工藤 太陽さん (フェスタスタッフ)

私は子どもの自然体験活動にすごい興味があり、中山史跡ウォーキングと、子ども基地
で遊ぼうに、スタッフとして参加させていただきました。プロジェクトのメンバーとして、中
山史跡ウォーキングについては、中山の豊かな自然を満喫できるような公民館事業の史跡
ウォーキングを、なかやま体験フェスタでやるという形で企画しました。中山地区の古墳や
道祖神を巡る約7キロのコースを、参加者の皆さんと一緒に半日かけて回る内容でした。

子ども基地で遊ぼうは玉田さんが中心となつて、竹を使って工作をし、竹でご飯を炊く
体験をしてもらい、私自身、懐かしく子どもの頃を思い出すような時間になりました。

企画の段階から当日まで関わらせていただき、中山地域の方々が中心となつて企画さ
れていますが、本当に中山地区は元気な皆さんが多いなという印象を受けました。

また、私自身も運営に関わる中で、中山地区の魅力に気づくことができましたし、今年も
体験フェスタに関わる予定です。今年の史跡ウォーキングは、昨年度よりさらにバージョン
アップさせて、2つのコース用意する予定なので、皆さんにぜひ参加していただきたいと思
ひもありますし、ぜひ市長もよろしければお越しいただければと思ひます。

(3)松本大学 斉藤 洸大さん (フェスタスタッフ)

今回、社会教育の実習の一環として、豊かな自然をうまく使って実習をしたいという話
から、中山体験フェスタを紹介していただき実践させていただきました。

実際にインタビューをして、フェスタは地域のやりがいとか繋がり、自分の役割を生かせ

るイベントである、とすごく感じました。

また、子どもたちが小さいころから、地域の人たちと自然などに触れていると、これから何か地域への愛着をもって、大きくなった時に若者のUターンに繋がってくるのかなって感じました。中山地区には短い期間でしたが、一番の魅力をいただく、圧倒されたすごく素敵なイベントでした。

(4)かまばの森で遊ぶ会 代表 玉田 尚子さん

私達の団体は2018年、6年前に始めましたが、最初は自分の子どもと、そのお友達でサークルのように始めました。今では松本市内だけではなく、近隣市町村からたくさん子どもたちに体験してもらっています。主催事業は、子どもサバイバル教室の小学生向けの体験や、未就園児向けの親子に、森のお散歩会など自然の中で遊ぶ自由遊びの場を開催しています。開催していて感じているのが、親のアンテナの高い家庭の方が中心に参加していただくことが多く、“全ての子どもに幸せな子ども時代を”キャッチフリーズにして、かまばの森を展開しています。

先日、中山小学校3・4年生の子どもたちの遠足で、焚き火をしてスープを作り、お弁当と一緒に食べる体験をしましたが、いろいろな家庭環境の子どもたちがいて、学校行事で行うと、どんな子どもたちにも参加いただける利点があり、来年度から小規模特認校になるとお伺いして、何かこちらでもできることがあれば、協力したいと考えています。

なかやま体験フェスタで感じたのが、中山には、いろいろな才能を持った魅力ある方々がたくさんいるので、何かこれをきっかけに繋がり、盛り上がって、この環境を生かし、中山にたくさん子どもたちや家族が来れば良いと思います。私自身、筑摩に住んでおり、中山の住民ではありません。ずっと住みたいなと思って、空き家を探していますが…毎週水曜放課後とか、週末イベントで子どもたちを集めてやっていますが、いつでも行きたいときに自由に遊びができる、みんなで子どもを育てる環境づくりがしたいと思っています。何とかこの空き家対策事業が進めばいいなと思います。

(5)お外で読み聞かせ 赤井 幸子さん

“なかやまマップ”の一番後ろに中山文庫が記載されておりますが、私が小さい頃、絵本などを乗せて、移動図書館として走っていた思い出のバスです。

松翠文庫には、未だたくさん書籍が保管されておりますが、昔、市図書館へ移行していく話があったみたいですが…実現できればと思います。子どもたちは、お話は好きですし、良い環境で読み聞かせの体験になればと思い、続けています。



【市長コメント】

齊藤さんのフェスタ映像で、“ちょっと、えっ”と思うような音楽を使われて…ということでした。それは今まで大学生のような年代の人たちが参加してないということから、中山の年代の上の方々にとって、最初はちょっと、自分たちの感覚と違うようなもの、そのことが少し戸惑いもあったかもしれませんが、明らかにそうしたものをどんどん受け入れることが、おそらく楽しくて、面白くて刺激的だということに繋がっていくはずだと思います。

また、少なくとも高齢化が進んでいる地域に、今回のような数日間だけであっても、大学生が参加していること、そしてちょっと面白いぜと、いうことで仲間を増やし、裾野を広げて、去年より1人でも2人でも増やしてほしいと思いました。

工藤さん、あるいは玉田さんも話されていましたが、子どもたちの自然体験を、松本市内35地区はもちろん、それぞれでできる地区はたくさんありますが、やはり環境的には1,2を争うこのベースがあるのが中山地区で、子どもたちの自然体験として、なかやま体験フェスタを一番の頂点にしながら、いろんな活動の継続に、お手伝いができればなと思いました。

玉田さんのお話の中で一つ、やはりそうだなと思ったこと、感じていることが、学校との繋がり、あるいは学校が地域に、地域の人たちが学校に気軽に入っていける、そういう関係性が、これからは特に必要であると思っています。

今、伊佐治教育長になってから、どうしても学校は同じ考え方を持つグループ集団になりがちなものですから、外の空気と少し違うものが、やはりこれは松本市だけじゃなく必要だと思っています。私や伊佐治教育長が取り組もうとしている重要な柱の一つです。このハードルを取り崩してほしいという声をぜひセンター長を初めとして、松本市の教育に関わる人たちにいただきたいと思っています。それを学校をフィールドに、地域のフィールドに力を入れていきたいと思っています。

最後に赤井さんからの中山文庫の秘蔵書物の件です。今、主要図書館の大規模改修が主な課題になっています。中央図書館は、当然ひとつの起点になりますが、もっと街中の場所も確保して、もしかすると本というよりも、少し概念を広めて、映像とかも含めた情報や知識を子供たちに、あるいは幅広い世代の人たちに、日常的に観ていただける環境を進め、図書館の拡充の中に、中山の話も具体的に取り入れていきたいと思っています。



(6) ひろば事業推進協議会 会長 小岩井 元雄さん

中山ふれあいひろばまつりは、世代間交流に重点を置き、子どもから大人まで地区住民がひろばに集い、昔遊びなどをとおして楽しくふれあい、交流することを目的として夏休みの時期に実施しています。

隣接の考古博物館に協力をいただき、火おこし、弓矢の体験もしています。中山は昔から日常的に竹を利用してきており、七夕飾りをシンボリックに飾るようになっています。その竹では、竹細工コーナーを設置し、水鉄砲、竹笛、竹トンボ、竹ぽっくりなどを地域の方に指導いただき作製します。子どもたちは最後には流しそうめんも楽しめます。まつりを通じて、中山の宝である子どもたちと、顔を合わせて交流できる機会として、地域みんなで子どもたちを優しく見守っていききたいと思っています。

(7) 民生児童委員長 百瀬 佳典さん

世代間交流の話がありました。高齢者の多くが参加できない状況になりつつあります。そういう方を見守っていく上で、すでに地域や町会の方々が行動に移してくれています。中山には、見守る力が増えてきているように感じます。

子どもたちの見守りに関しては、中山の良さを生かして保育をしています。小学校の小規模特認校制度の話を書きましたが、園児の件も、学校との歩調を合わせる中で、話を進めていただければと思っています。

(8) 中山保育園保護者会 副会長 五十嵐 由佳さん

中山の魅力としては、本当に自然豊かで一歩外に出れば緑一面で、虫もいっぱいいたり、子どもたちの目がキラキラと過ごせる環境ではあると思います。

しかし、年々、世帯数、子どもたちの数も減少しており、保護者会の中で心配しております。保護者の世帯数が減少していることによって、保育園の環境維持と環境整備をしていくことが大変になってきています。6月と9月に保育園の環境整備をしています。そもそも世帯数が少なくなっていることが原因と思いますが、保護者の力だけではやはり環境整備というのは難しくはなってきました。昨年度より保護者の作業を地域の方をお願いし、草刈りサポーターとしてご協力いただいているような状況です。この環境をずっと維持していきたいですし、子どもたちもすごく大好きな保育園です。今年から01クラスがなくなりました。小学校は来年度より小規模特認校になるというお話もお聞きしました。小学校だけではなく、保育園の方にも目を向けていただいて、園児が増えるような働きかけをお願いしたいと思っています。

(9) 中山保育園保護者会 会計 小笠原 優香さん

中山保育園は、本当に地域の方々に支えられており、皆さんで子育てをしていただいている感覚を感じます。園児が地域の方と野菜の苗から育てていて、私の子どもは、私より、よほどジャガイモの種類を知っているのではないかなと思います。地域やサポーターの方々と交流させていただいて本当に感謝しています。

小学校が来年度から小規模特認校になることを含め、保育園からまず中山地区以外からお子さんがたくさん来て、地域の方々とたくさん交流していただきたいと思っています。そのまま、地区外から中山小学校に通学することができて、親御さんが中山の地域を気にいっていただき、移住していただけたらとても素晴らしいことではないかと考えております。地区外からの親御さんのデメリットは、通学、送迎の面であると思います。そういったサポートを市でもしていただけたら、通いやすい小学校になると思いますのでお願いいたします。

(10) 中山小学校PTA会長 東 英一さん

来年度から小規模特認校制度で、地域外の子どもたちを、保護者、地域住民の皆さんと支えていかななくてはなりません。この自然環境に良い中山で、子どもの学びを大切に考えていきたいと思っています。

【市長コメント】

まず、保育園は小学校とは違い、基本的には地域単位で、子どもたちを通わせるというルールはないので、お子さんを預けたいという保護者が、やはり自分の仕事とか、自宅からの距離というようなことから、優先順位を決めていただいているわけですが、中山保育園を希望する方がなかなかいないという現状になっています。

この中山という場所は、子どもたちの自然体験をしてもらうには非常に良い環境が整っていること、それと一定の距離はあるとは思いますが、実は街場と非常に時間距離も近いということです。自然体験が子どもたちに提供できるという保育園の特色を生かし、その保育を情報提供していくことを私達も一緒に取り組んでいきます。

今、間違いなく、3歳未満のお子さんを預けて、共働き、そして共に子育てしていくということが、20代30代の皆さんは、一番基本の形になってきています。いろいろな保育の環境とか条件を、段階的ではありますけれども進めています。

3歳未満児を、預けたいという方々に需要が間違いなく増えており、増えているにもかかわらず、中山保育園の0、1クラスは、希望者がいないとすれば、自然保育で自然体験のできる保育園としての充実を図っていくことが必要と考えます。

来年からの小規模特認校の話ですが、まず一番スタートは安曇小、中学校になりました。

何人かの生徒が、近隣の波田、梓川小中学校に通わせている子供が、学校に馴染めないことで、児童生徒数が少なく、そして自然環境が豊かな場所だと始まっております。それと同じような傾向を持ちながら、街場に近い中山ということでスタートさせます。

これは保育園も同様、子どもたちが歩いて通える場所ではないが、まずはそれだけの魅力がある保育園、小学校になることがなければ、歩いて通える所よりも、わざわざ遠い所へ通わせたいということになりません。魅力ある学校へ今の校長先生を初めとした学校の先生や、そして玉田さんのような学校外でグループの子どもたちの遊びを支えている人たちや、この中山小学校にかかわる大勢の方々が協力して、自宅の近くの小学校よりも魅力的だと思われる、この中山が小規模特認校の効果を出すために、一番の軸であることは間違いのないと思います。

その上で、通いに対しての負担軽減、これをどういう方法で、どの程度行うことが必要なのか、状況を見ながら対応を考えていきたいと思います。安曇小中学校で波田から交通費の補助として一定の助成をしています。それを全くやらないと、いくら魅力的でも難しいと思います。それを今度、中山にどういう形で反映させるかということは、来年からスタートに向けて準備になると思います。

(11) 民生児童主任委員 赤井 幸子さん

中山にも職場復帰を希望されるお母さんが増えてきており、未満時クラスの増設等に柔軟な対応をお願いしていきたいと思っております。

また、地区内にも、中山保育園、中山小学校へ通っていない子どもたちがいます。それは通学距離による交通手段が原因と考えますが、先ほど交通費補助のお話がありました。小規模特認校により、地区外からの移動手段と一緒に考えていただければと思います。

【市長コメント】

今までは地域で、例えば見守り、あるいは防災、ゴミはもちろんですが、地区、町会にとっても極めて優先順位が高くて、それぞれ皆さんが労務提供もしながら支えている公共的サービスです。これからはそれに加えて、移動手段というものが松本市全体はもちろん、地域とか町会の皆さんが協力し合って支えていく一つですし、やらざるを得ない、松本ができるかできないかが、それぞれの人々にとっても優先順位の高い重要な問題であると思います。お子さんの移動はもちろん重要です。それは距離だったり、人数だったり、あるいはサポートできる大人の体制等は地域によって異なります。移動を地域で行っていただけるか、それをどういう形でサポートしていくか、金銭的なものなのか、金銭に頼らないような仕組みを皆さんとともに、知恵を出し合って考えていきたいと思っております。

(12) 中山児童センター長 設楽 秀子さん

児童センターですが、学校、家庭に次ぐ第3の子どもの居場所という視点に立ち、子どもたちの自主性を最優先にしながら、将来に向けた生きる力をつけてもらうための支援をしております。皆様のご協力をいただきながら、様々な遊びとか学びを提供しております。

現在、54名登録をしておりますが、学校の規模から考えますと約6割近くの子どもたちが登録をしており、ひしめき合いながら、生活をしているという現状であります。

今年からは、松本市の子どもの居場所づくり支援金を申請いたしまして、毎月2回、学習支援と遊びとか体験の支援をさせていただいております。

現在、54名ですが、来年からの小規模特認校になるということで、やはり心配は学区外から通うことにより、児童センター利用者が増加されると思われまます。現在でも遊戯室は、夏は暑く冬は寒い場所なので、来年度に向けて空調等の環境整備をしていただければありがたいです。やはり子どもたちのために良くない環境かなど、私達の大きな課題です。

また、歩いて遠くから来ている子がたくさんいまして、一度家に帰ってしまうと自由来館に間に合わないのが現状です。利用時間が短いことも原因の一つかなどと思っております。毎日ではなくても、月に何回か利用できる日が作れればと思っております。1人でも多く来ていただければ良いのですが、やはり登録児童はお金いただいておりますし、登録以外児童とのすみ分けは、きちんと対応しないといけないと思っております。

【市長コメント】

児童センターの建物が狭隘化しているという問題です。場所は小学校のすぐ近くにあるということですが、今、小学校の子どもは減少しており、小学校施設は逆に狭隘ではなくて、ある意味スカスカなわけですよ。これが本来は、全体として運用ができるような児童センター機能を、小学校の建物やスペースを使ってできないということが、今の実情から、ずれていると思います。学校と地域の垣根をできるだけ取り除いて、特にこのハード面は限られた資源を有効に進めなければと話をしています。

学校が、この外で活動されている方や、趣旨としては子どもを遊ばせたり、学びの時間を与えることは同じはずなのに、そこが制限されてしまう、これはぜひ、動かしたいと思っておりますし、私は動かすことができないわけじゃないと思っております。

狭隘で暑いことに関しては、元々小学校のエアコン設置も非常に遅れてしまって、ようやく段階的にやってきており、後回しになっていきますので、他の類似施設と整理をして予算付けをしていきます。

もう一つ、登録外の生徒は、いったん帰宅してからでないセンターに来れない件ですが、帰宅してからでない、親御さんが心配したり、治安の観点からも難しさはあります。

しかし、私は実態に合わないと感じており、時間を経たずに結論を出したいと思っております。

(13) 松本大学 飛島 里香さん（地域づくり実習生）

今回の実習では、幼いころからお世話になっているこの地区で、小学生の居場所であったり、公民館の学習支援をしていこうと思っております。

まず小学生の居場所について、中山には子どもたちがたくさん学べる場所があることがわかりました。ひろばであったり、児童センターであったり、自然環境、また、住民が子どもたちを大切に思う気持ちが、その場に現れていて、私はそれが一番大切で大事なことかなと思えました。私の友人は大学進学を機に東京に出ましたが、里帰りのたびに中山の景色であったり、のどかな街並みに懐かしみを感じて、東京に戻るときに寂しがります。私たちは子どものころから、中山でのびのびと自然に囲まれて生活してきた中で、いろいろな経験をし、そういう記憶が今でも忘れないものになっているのだと私も思いました。

(14) 瀧澤 歩さん (ビデオメッセージ)

私は、日用品メーカーの営業マンとして働いていますが、主に休日を利用して、コーヒーの焙煎士として活動しております。自分で焙煎したコーヒーをオンラインショップで販売するなどを行っております。大学から13年ほど東京に住んでおり、便利というのがあったのですが、隣りに住んでいる人が誰かわからないような環境ですとか、人と人の繋がりを感じにくかったり、また自然の四季でさえも感じにくい環境でしたので、地元の長野県でと思いまして、転勤の希望を出して戻ってきたところです。



松本市の中山の道を通った時に、すごく広がりのある霊園ですとか、松本平が一望できる、さらにその奥にアルプスが広がるという景色を見て、本当にこの場所で自分が珈琲屋をできたら、なんて良いだろうと、ここに決めました。ただ、それだけではなかなか進まず、地域の方とも何か良い縁が持てないかと考えたときに、中山公民館が活発に地域の方々たちと活動しているホームページを拝見しました。この場所で私も珈琲屋をやっていきたいと、人が集う場所で飲む、最も安らぐ場所を作っていきたいとお伝えしたところ、本当に地域の方たちが盛り上がりてくださいました。珈琲屋のプロジェクトも、非常に良いロケーションの中で飲むコーヒーを目指してスタートしていくことができいております。

この中山の地域の方々たちの魅力は、私に関わる方はこれからの中山をどうしていきたいですとか、本当に前向きな意見がどんどん出てくるような方々が多い印象です。私もその中で珈琲屋をして、お役に立ち、一緒になって過ごすことができれば、人生がとても豊かなものだなと感じており、中山で計画を進めています。

(15) 町会連合会 会長 小林 弘也さん

今日は大変お忙しい中ですが、臥雲市長においでいただき、懇談会を開催させていただきました。ありがとうございました。

住んでよかった中山、元気な皆さんの声を、市長にご理解いただけたと思います。

やはり話題の中心は、少子高齢化で人口が少なくなることに、これからどうするかという事だと思っておりますが、市長より住み続ける対策を講じていかなきゃいけないというような言葉をいただきました。

それから小規模特認校について話題になりましたが、市長からは非常に丁寧な言葉をいただき、ありがとうございました。私が一番感じているのは、先ほど話も出ましたが棚峯町会の子どもたちは、ほとんど明善小学校へ通っています。同じ中山地区でありますので、ぜひ、中山小学校に全員通学できるようにというのが私どもの願いでございます。そういった面でも、いっしょにご検討いただければと思います。

最後でございますが、自然環境のすばらしい中山ではございますが、松枯れが非常に進んできております。大半が災害指定区域になっており災害時の対応も非常に不安でございます。今後ともぜひ市長にも、さらにご尽力をいただきたいと思っております。

【市長コメント】

先ほど瀧澤さんのVTRを拝見して、改めてこのロケーション、そして松本の中心市街地からの距離感を考えたときには、中山に住みたいと思い、その中山を選択される可能性は非常に大きいのだと思いました。

昨年1年間の社会移動により、入ってくる人と出ていく人、その数が長野県が22年ぶりにプラスとなり、77市町村の中で最も松本市が多かった、ということにあらわれたと思います。

松本に移住を希望する方々は、大きく二つに分かれると思っていて、ひとつは、やはり都会的な生活とあまり差がない、例えば、松本駅周辺からあがたの森ぐらまでの間に住もうと、もう一つは、中山や四賀のように自然環境の良いところで子どもを育てられる、この二つをこれから松本で新たにスタートする人たちは、目指して行くのだろうと思います。

改めて、中山の場合は市街地に近いので、市街化を、どうやって住居を提供できるかということが非常に大事なことで、特に結婚した、そしてこれから子どもを育てるといった、いろいろなところにお金がかかる方々は、なかなか住居に大きなお金をかけにくいけれども、もしそれが比較的費用を抑えて、住居が提供されるならば、ぜひ中山に暮らしたいと、いう需要は極めて先制的に大きいことがわかりました。そうなれば、何回かお話が出ていますが、空き家の再生活用ということ、これは松本市全体での課題でもありますけれども、とりわけ中山においては、空き家の再生重点地区というような位置づけをして、そして関連する部局をこの中山の空き地、空き家の再生活用をモデル的に考えていければと感じました。

そして小林さんからはずっと市街化調整区域の運用について、お話をいただいておりますが、ご要望通りにいかないところがたくさんあります。これも農業振興と、定住、移住というもの、あるいは住宅だけではなく、先ほどのカフェなどもできるように、これも新たに水道などのインフラ整備はこれからの時代はできませんが、既にあるものを活用した範囲の中で、規制の緩和、撤廃ということは、ぜひ農業部門の方々と一緒に進めてまいりたいと思います。

今日改めて特に子どもに携わっている皆さんからのご意見ご要望をいただきました。

速やかに措置のとれる話と、少しお時間をいただくものがありますが、“子どもが主人公だ”と、現在松本市も進めております。その中でも自然体験、自然保育、教育のトップランナー的な役割を中山の皆さんに進めていただきたいと思います。

そして今年の中山体験フェスタ、ぜひ、中山の皆さんの力で、盛り上げていただきたいと思います。ありがとうございました。

